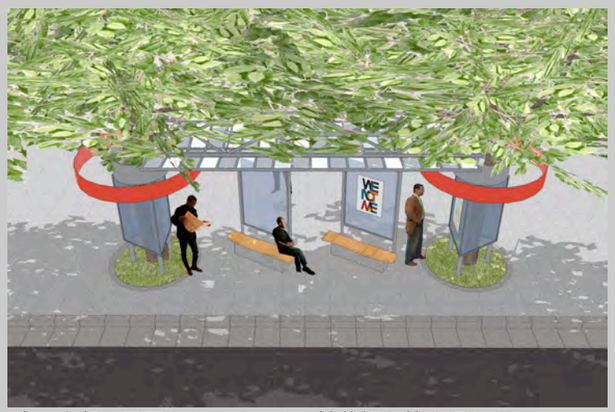
木漏れ日落ちる緑のバス停
Shade of a tree on green bus stop

那覇市内バス停上屋意匠選定設計競技

樹木による緑化は場所を問わず景観に調和する。緑のバス停は沖縄のどこの風景にも自然に溶け込む。
ピクトサインの色彩によってエリア分けをおこなうが、形状は変えずに那覇のバス停全体の統一性をもたせる。

大きく育った樹木がバス亭のシンボルとなり、サインとなる。
大きな木陰は場に安らぎを与える。



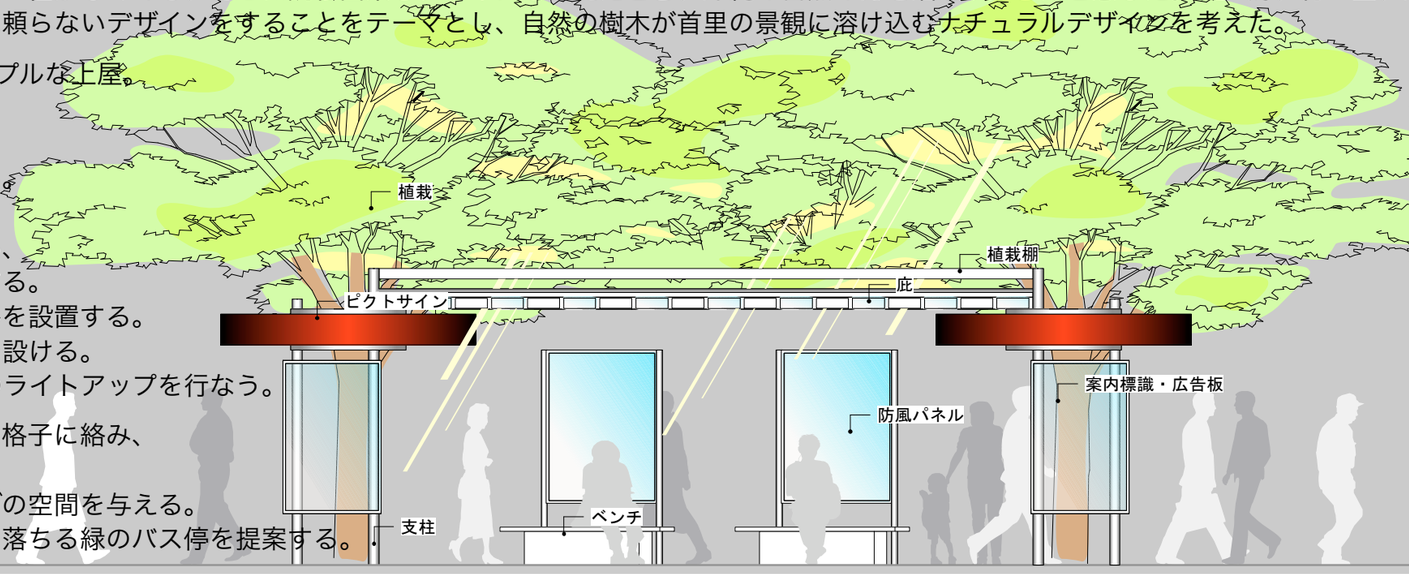
庇の上部に設置したスチールの植栽棚に枝を這わせ、
将来的には緑で全てを覆い隠し木漏れ日を落とす。

Concept

建築的に沖縄らしいデザインを考えたとき、赤瓦の木造建築・首里城のような立派な屋根、そういったイメージが頭に浮かぶ。だが、今の那覇の建物は、赤瓦の屋根の建物は少なく、コンクリートの建物であったりとバラバラである。背景となる建物に統一性がなくても、そこに調和出来るデザインを考えたとき、沖縄の自然の力を活かすべきだと感じた。青い海、青い空、深い緑。沖縄らしさは自然の中にあり、それは景観そのものとなるはずである。人工物に頼らないデザインをすることをテーマとし、自然の樹木が首里の景観に溶け込むナチュラルデザインを考えた。

スチール製の3本足の支柱と庇からなるシンプルな上屋。
支柱の中央にガジュマルを植える。
庇はガラスとアルミパネルを交互に配し、
程よく木漏れ日が落ちる明るいバス停となる。
庇で受けた雨水は両側の植栽帯に流れ込む。
ベンチには琉球石灰岩と琉球松の県産材をい、
バスの到着を確認しやすいよう斜めに設置する。
ベンチの後ろ側に広告板を兼ねた防風パネルを設置する。
支柱を囲むようにして、案内標識・広告板を設ける。
夜間はLEDのスポットライトにより、樹木のライトアップを行なう。

二本のガジュマルが上屋の屋根に設置された格子に絡み、
そこに緑のトンネルを形作る。
その下には、木漏れ日が落ち、人々に安らぎの空間を与える。
緑化と景観の機能を同時に実現する木漏れ日落ちる緑のバス停を提案する。



仕上表
植栽：ガジュマル2本
支柱・庇・植栽棚：ｽﾁｰﾙﾌﾚｰﾑ亜鉛ドブ付
屋根材：合わせガラス／アルミパネル
ベンチ：ベース：琉球石灰岩／天板：琉球松
案内標識・広告板：ｽﾁｰﾙﾌﾚｰﾑ亜鉛ドブ付／合わせガラス
防風パネル：ｽﾁｰﾙﾌﾚｰﾑ亜鉛ドブ付／合わせガラス
ピクトサイン：ｽﾁｰﾙﾌﾚｰﾑ亜鉛ドブ付焼付塗装／ｱｸﾘﾙ表示板
照明器具：LEDスポットライト